

世界史

(分析は一般入試Aの問題のみです)

出題傾向

入試日程	大問	出題分野・テーマ	難易度
2/3	第1問	テーマ史「著名人の格言」	標準
	第2問	テーマ史「中東・中央アジア・インド諸国の対外関係」	標準
2/4	第1問	テーマ史「世界史上で活躍した兄弟」	標準
	第2問	テーマ史「世界史に登場する師弟関係にあった人々」	やや易
	第3問	テーマ史「世界の教育機関」	標準
2/5	第1問	テーマ史「技術改良や新制度の始まりによる社会・生活の変化」	標準
	第2問	テーマ史「現代の国際情勢」	やや難

入試日程によって大問数は2～3題と異なるが、設問数は26問で共通している。解答形式はマークシート方式で記述解答問題はない。いずれの大問もテーマ史で出題されているが、リード文はなく一問一答形式で出題されており、問われている内容に関連性はない。出題形式は、4つの語句から適切なものを選択する問題、4つの短文の正誤判定問題、4つの出来事の年代配列問題と様々であるが、6～8割が正誤判定問題である。なお、写真や地図を用いた問題は出題されていない。

出題されている時代は古代から現代まで幅広く、極端な偏りが無い。どの入試日程でも第2次世界大戦後の現代史の内容からも出題されているため、必ず全時代の対策をする必要がある。出題されている地域もヨーロッパ、アメリカ、アジア、アフリカと広域であるが、やや西ヨーロッパと中国からの出題が多い。テーマ史で出題されているため、正誤判定問題の中には異なる時代・異なる地域に関する知識が一つの設問の中で問われている場合もあり、時代ごとや地域ごとに学習し、身につけた知識を柔軟に活用し正答を導く力が求められている。出題されている分野は政治史を中心としつつも、経済史・社会史・文化史に関する設問も見受けられる。特に文化史から3割程度出題されている入試日程もあり、学習を疎かにしないほしい。

問題の難易度は標準的で、教科書の内容を大きく逸脱するような出題はない。ただし、センター試験の正誤判定問題に比べて選択肢の文が長く、やや細かな内容を含む設問もあるため注意が必要である。

世界史

(分析は一般入試Aの問題のみです)

学習対策

椋山女学園大学の入試問題は、高等学校の定期試験のように、時代ごと・地域ごとに大問が構成されているわけではなく、「テーマ史」で出題されているため、戸惑う受験生もいるかもしれない。しかし、個々の設問に関連性はなく、問われている内容も概ね教科書レベルの知識であるため、テーマごとの学習にこだわらず、まずは教科書の流れに沿って学習を進めてほしい。その際、同大学の入試問題は大きな時代的偏りがなく、全時代から出題されているため、不得意な時代をつくらず、どの時代の問題にも対応しうる基本的な知識を身につけることが大切である。古代史から学習を始め、現代史の学習が十分ではないまま入試当日を迎えてしまうことがないように、計画的に学習を進めてほしい。入試日程によっては2000年代の出来事からの出題が複数見受けられるため、日頃から国際社会の動向などにも関心を持ち、時事的な問題にも対応できるようにしておきたい。

前述したように同大学の入試問題は正誤判定問題が大半を占めており、教科書に太字で記されているような重要語句の暗記だけでは合格点をとることができない。教科書を精読する際は、重要語句の前後の内容に留意し、歴史的事象の背景、原因、結果、他の歴史的事象への影響などをしっかり理解しよう。正誤判定問題を苦手としている受験生も多いが、同大学では解答の根拠が曖昧な問題や極端に細かな正誤性を問うような問題は出題されていない。一部に細かな内容を含む選択肢も見受けられるが、そのような場合も他の選択肢を冷静に読めば消去法により正答を導くことができる。したがって、問題演習を繰り返し行い、正誤判定問題への対策をすれば高得点をとることができる。まずは、同大学で出題されている正誤判定問題に比べて選択肢の一文が短いセンター試験の過去問、またはセンター試験向けの問題集を解いてほしい。その際、選択肢の中で誤っている部分を確認し、どのように書きかえれば正しい表現になるのか考え、正誤を判断する力を養おう。頻出の誤文パターンや消去法などのテクニックを習熟し、最終的にはぜひ同大学の過去問を解き、自信をもって入試本番を迎えてほしい。